科目名	看護を展開する思考技術 （看護過程・臨床判断）	対象学年・時期	1年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間

講義概要

ディプロマポリシー3に基づく。
超高齢社会を迎えたわが国では、医療や介護が必要な高齢者が急増する一方、出生数は低下しており、また生産年齢人口は著しく減少している。この変化に対応するため地域医療構想の実現、地域包括ケアシステムの構築が推進されている。
このような中、看護が展開される場は病院から地域へと拡大しており、看護の対象も、健康状態や発達段階にかかわらず地域で暮らす人々とその家族まで拡がっている。病院では患者の状態に関する判断は医師をはじめ各専門職が行うが、地域では常に医師や専門職がいるとは限らない。そのため、看護師には対象の変化や反応を直観的に捉え、即時的に対応していくための臨床判断が不可欠となる。
同時に、絶え間ない時間の中で暮らしを営む1人の生活者として対象を理解し看護を実践するにあたっては、定型的なツールで情報を収集し、情報同士の関連から科学的根拠に基づきアセスメントを行い対象の看護問題を明らかにする看護過程（論理的で熟慮型）の思考技術も必要である。
そこで、ここでは「看護過程」と「臨床判断」の看護実践における重要性と意義、それぞれの思考過程を学ぶ。

講義形態

講義、演習

学習目標

1. 看護過程と臨床判断の思考が理解できる。
2. 科学的根拠に基づいたアセスメントをすることができる。
3. 対象の変化や反応に気づき、解釈できる。
4. 領域に特徴的なアセスメントの視点がわかる。

学習内容（授業計画）

1. 看護を展開する思考技術の導入 リフレクションとは	なし
2. リフレクションの演習	事前学習：リフレクションのワークプリント
3. 問題解決思考・クリティカルシンキング・ロジカルシンキングとは	なし
4. 問題解決思考の演習	事前学習：問題解決思考のワークプリント
5. 臨床判断演習（グループワーク）	事前学習：発熱の病態生理
6. 看護過程の演習 看護過程とは ゴードンの機能的健康パターン	事前学習：肺炎の病態生理
7. 看護過程の演習 活動のアセスメント、関連図	事前学習：『活動・運動』のアセスメント 『活動・運動』の関連図
8. 看護過程の演習 栄養・代謝、排泄のアセスメント パターン間の関連	事前学習：『栄養・代謝』『排泄』のアセスメント
9. 看護過程の演習 関連図の解説	事前学習：『活動・運動』『栄養・代謝』『排泄』の関連図
10. プロセスレコードとは【精神】	なし
11. プロセスレコードの演習 アセスメントの視点【精神】	事前学習：プロセスレコードの記載 事後学習：プロセスレコードの振り返り （詳細は講義で説明します。）
12. ICFの概念、アセスメントの枠組み【地域・在宅】	なし
13. 高齢者総合機能評価によって高齢者の全体像を捉える【老年】	事前学習：教科書（CGAについて）を読んできてください。
14. 子どもをアセスメントする視点【小児】	事後学習：レポート作成
15. 母子をアセスメントする視点【母性】	事後学習：産後女性の人間の反応と援助についてワークプリント

使用テキスト

看護がみえるvol.4 看護過程の展開
系統看護学講座－専門分野　基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ
看護過程に沿った対症看護病態生理と看護のポイント
NANDA-I　看護診断　定義と分類　2021-2023　原書第12版

事前学習・ 事後学習 （学習を促進できる学修）	内容については「8.学習内容」を参照してください。 指定日まで各教員に提出してください。
評価基準と 評価方法	提出物によって評価する。 臨床判断・看護過程・・・50点 精神、地域・在宅、老年、小児、母性・・・各10点ずつ
備考	演習については、課題として取り組むものが多くあります。 講義で学んだことを生かし、自身で積極的に課題に取り組み、その後の各領域の授業や実習に生かせる思考を身につけましょう。